

退任するにあたって

石椏同窓会前会長

松 見 得 明

第二代会長松浦文彌君（昭和二五・七〜三

四・四）から出京することになったから後を頼むといわれて会長に就任したのが昭和三四

年四月のこと。

今ならそんな会長の受け渡しなど考えられないことだが、当時は引き受け手もないまま

それで済んでいたのである。

当時私は黒沢尻工業高校の教頭で家から通勤していたので同窓会の仕事も何とかなるだろうと軽く考えて引き受けたのであった。ところがその後校長に転出し、藤沢高校・一関工業高校・花巻南高校と転じ会務を執ることができなくなり、運営一切を副会長の戸嶋先生にお任せし、私は名ばかりの会長で徒らに席を温めているだけであった。それでも誰も

文句を言うでもなく疑義をさしはさむ人もい
なかつた。それは会員各位の戸嶋先生に対す
る信頼と先生の人格・識見によるものであつ
たのである。

こうして年次を送り、私が本格的に腰を据
えてやれるようになったのが昭和四六年定年
退職してからのことである。従つて就任三五
年とはいつても実質二十余年ということにな
る。この間の大仕事？ と言えば、

○昭和五二年の校舎炎上焼失に伴う再建

への資金協力募金活動

○創立五〇周年記念総会・事業行事の企
画執行、石桜振興会の設置並びにその運
営

○石桜振興会運営資金造成の一方途とし
ての随筆集「心象点描」の出版領布

○「三田義正伝」の刊行

○高橋克彦氏直木賞受賞並びに大河ドラ
マ「炎立つ」原作執筆記念文化講演会及
び祝賀会開催

等であるが、これらの成功は全て役員はじめ
会員各位の母校愛による成果である。私はた
だその頂点に座らせていただいていただけの
ことである。

かくしてここ数年来忸怩たる思いしきりで
幾度か退任の意を表明していたのであるが、
この度漸くお許しが出て退任の意が叶えられ
た。

ここに心から各位のご支援を謝し、退任の
辞とするところである。

また、同号で赤坂新会長は母校と同窓生の一体感を強調、前会長の功績を汚さぬようと次のように精進を誓った。